



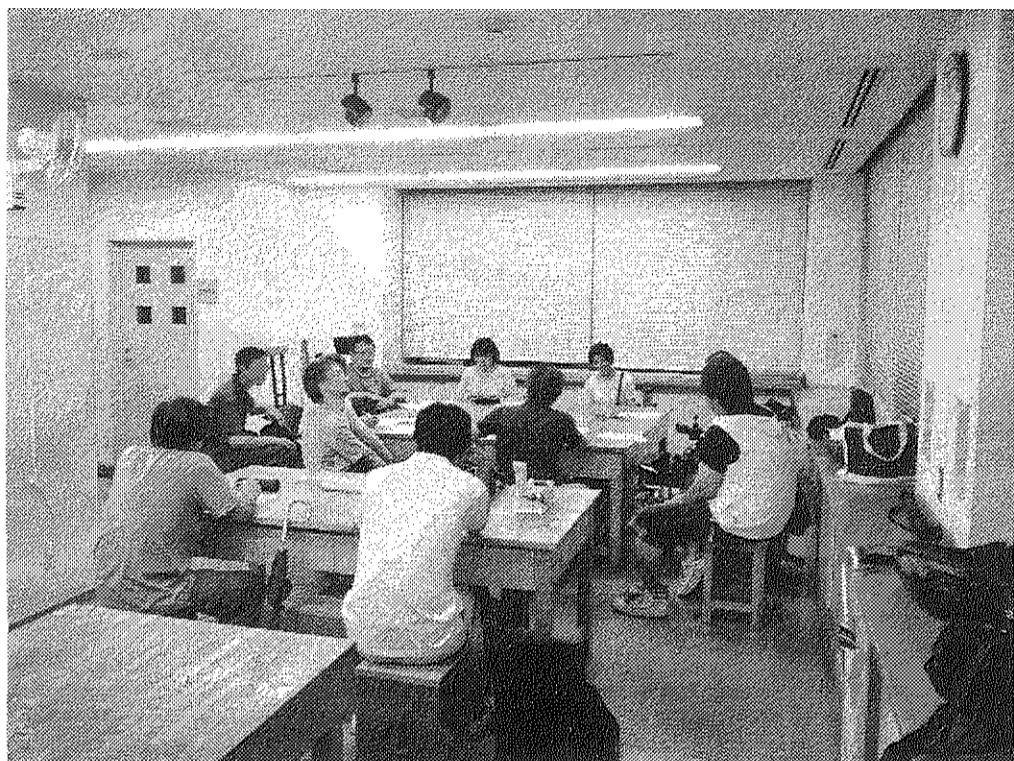
2013.7.1.

Tel 080-3451-8400

E-mail hasshoren8.zim@softbank.ne.jp

例会の報告

6月20日の例会は、運営委員会議と例会を分けて開催する事になってから、初の例会となりました。第1回という事もあり、以前の例会と差ほど変わらない内容でスタートしましたが、今後の例会の在り方についての意見交換ができた事により、質の高い話し合いが実現されました。



今まで毎月第3木曜日18時～19時を例会、19時～20時を運営委員会と時間で区切ったやり方を、今後は毎月第3木曜日18時～20時の2時間を例会とし、運営委員会を必要に応じて別の日程で行う事によって、充実した内容を提供できる様になった反面、例会の計画的な事前準備も必要となってきました。

その為、今回の例会では次回の例会の企画として、「支援法への移行後に運営方法や活動内容で工夫や見直しを行った法人の方をお招きし、話を伺う」といった案をもとに、企画の詳細について参加された皆さまと内容を詰めてゆく作業を行いました。

“例会参加者のニーズはどこにあるのか?”、“例会参加の動機や何を目的に出席されているのか?”といった基本姿勢から、外部へはあまり出てこない“他法人の就業規則や給与規定を知りたい”といったかなりピンポイントの内容まで、幅広い意見が飛び交い場を盛り上げました。

次回は第一弾という事もあり、ニーズの調査より実際にスタートをし、参加者の方々の反応から少しずつ必要とされている情報を模索してゆく事となりました。〈文責/川出〉

今回は盲導犬同伴の参加者がいらっしや、介助している時以外のペットとしている様子に会場が和ませられる場面も時折みられ、穏やかな雰囲気は漂っていました。(休憩中のアーちゃんです!)→



事務局通信 VOL.1

この欄では、今回から各月の例会での報告事項を中心に事務局の動きをお伝えして行きます。

今回は「八王子市障害者地域自立支援協議会」の動きをお伝えします。この自立支援協議会は自立支援法で各自治体での設置が義務化されているもので、八王子市でも一昨年ようやく相談支援事業所を中心に立ち上げられ、八障連の会員からも多くの方が参加しています。今年度で3カ年目を迎え、部会の活動が盛んになっています。

部会には現在「権利擁護推進部会」と「地域移行継続部会」の二部会があり、権利擁護部会では昨年成立した差別禁止条例の普及活動を中心に、8月1日には事業所向けの虐待防止の学習会、10月26日には昨年につきイベントの開催が計画され、その準備が進められています。また、8月には大型店舗や病院等に対して、条例の普及状況や合理的配慮について実地調査をおこなう予定です。

関心のある方は、多田までご連絡ください。

一方、地域移行定着部会では、重い障害のある人の地域生活を考える上で重要な選択肢のひとつであるグループホーム・ケアホームの実態調査をこの夏から秋に計画、現在その準備を進めています。

各部会とも、人材不足のまま活動が進められています。今後、各団体の皆さんにもお手伝いをお願いすることがあるかも知れません。

先ず、自立支援協議会の動きに興味を持って頂き、応援をお願い致します

〈文責/多田〉



私が自立生活を始めて、はや20年以上たった。

20年前までは栃木山奥の実家で暮らしていた。このまま親元にいたら人間らしい生活がおくれずに死んでいくのが怖かった。親が死ねば施設に行くしか道はなかった。「障害者」というものはこういうものだという枠に収まりたくない。「障害者」だからといってあきらめたくないと思ひ、死ぬ覚悟で八王子に移り、アパートを借りて自立生活を始めて現在に至っている。先輩たちに罵倒という名の指南を受け、「このやろう、絶対やってやる！」と思ひながら自分で試行錯誤し、失敗を繰り返して、生活をしていった。

20年前と現在の自立生活に対する意識が当事者、支援者ともに低いと思うのは私だけだろうか。

安易に「脱施設」「自立」を推進している世の中に流されて自立生活を始めてはいないだろうか。

私は、重度障害者にとって自立とは、自分で衣食住を維持するだけでなく、自分の可能性を広げるため、自らの意思で生活を作っていくことだと思う。

障害者が自立できないといわれていた頃、自立をするために障害者自らが、バリアを除外していった。そうすることによって自分が望んでいた自立生活ができていた。

今時の障害者はそのバリアがなく、特に運動が必要な訳ではない。だからなのか運動に消極的な気がする。

確かに、昔のように電車やバスが乗車拒否になることはないし、エレベーターを設置されていないところも少なくなってきたので、明確に「こう変わってほしい」ということはない。このような障害者が生活しやすい社会の中で、不自由なく生活することだけに満足するのではなく、貪欲に生きてほしい。

昔は持っているエネルギーすべてを使い自立生活運動をしていた。

現在は昔のような自立生活運動は必要ない。だからこそ持っているエネルギーを新たな挑戦に使ってほしい。バリアを避けるのではなく、あえてバリアにぶつかってほしい。形は変わっても、先輩たちが築いてきた重度障害者の自立生活運動はなくなってほしくない。だからこれからの自立生活は若い障害者が考えてほしい。

と思うのは、あの時代に自立生活を始めたオヤジの時代遅れの考え方なのだろうか。

以上。若い障害者の意見を聞いてみたいオヤジの戯言でした。



前回の続きです。

「電池の仕組みの詳しい事はよくわかんないけど、鉛がギュッと詰まってるって、車いす屋さんに聞いたことはあるよ」

『それってデンキウナギとどう違うの?』

さすがコッチの業界の子。質問の出し方が突飛です。

しかし、《今は車いすの話だよ。電動車いすのバッテリーの話だから、デンキウナギは関係ないよ》 なんぞと、上から目線で応えるのはあまりにヤボで芸がありません。

ここをキッチリ応えてこそ、自分自身に障害のある私が学校に出向く意味があるような気がしました。

目の前にいる以上はどんな子であれ出来る限りは授業の置き去りにしたくありませんし、ただでさえ人数の少ない中、その子一人が浮いている雰囲気を作りたくありません。そこで…

「デンキウナギの電気は筋肉で作られているんだよ。

デンキウナギの身体は全身の8割が電気を作る筋肉でできていて、みんなが身体を動かすときにも、すごく弱いけど筋肉の中に電気が流れます。

デンキウナギの身体の筋肉と筋肉を、電池を繋ぐように直列に繋ぐと…電力にして1アンペア。電圧にして850ボルトの電気が流れます。大きな牛や馬でも気絶するらしいです」

その昔、小学校入学のお祝いに群馬のおばあちゃんに買ってもらったお魚の図鑑には、こんな様なことが書いてあったかも…と思ひ出しながらしゃべりました。おばあちゃんありがとう。

「だから、バッテリーとはぜんぜん仕組みが違うんだよ」

全ての講演が終わったあと、担任の先生と話す機会が持てました。

『ありがとうございます。デンキウナギのことにまで丁寧に対応してくださって…』

「当然です。質問されたからには、どんなことにも一生懸命応えますよ(^_^)v」

興味を持った事柄にしか発揮されない日頃の偏ったの記憶力が、他人様のお役にたった瞬間でした。

この担任の先生が、若くて美人だったもので、ちょっと調子に乗ってかっこつけすぎたかもしれない…反省点。

最後に、この原稿がお手元に届く頃には、もう終わっている事柄ですが、6月の25日にもう一度恩方第二小にお招きをいただいています。この時の子どもたちが進級したため、新四年生がお相手です。現在は翌日の本番に向けて原稿の確認と、イメージトレーニングの脳内作業中です。前回目にした草木芽生える春先の自然も美しかったのですが、活力に満ちた夏の自然も美しいことと思ひます。どんな子どもたちと、どんな出会いが待っていて、どんなやりとりをすることになるでしょうか。

今から楽しみです。いってきます。

今後のスケジュール

7月 18日 (木)	例会	18時～20時	クリエイトホール 10階	第2学習室(同封のお知らせをご参照ください)
8月 22日 (木)	例会	18時～20時	未定	
9月 19日 (木)	例会	18時～20時	クリエイトホール	